

【滋賀】

<チェンジメーカー> 湖国の挑戦者たち(4) アットスクール・鈴木正樹社長

2010年1月5日

アットスクール社長の鈴木正樹さん(42)は、草津市を拠点に県内各地や大阪、京都市などで、幼児から高校生までを対象にした家庭教師派遣や少人数グループによる学習指導に励む。特に、発達障害や不登校の子どもたちには独自のスタンスで支援する。発達障害の子どもは人の話を聞くのが苦手だったりするが、「視覚認知能力に優れた子が多く、そんな長所を大いに伸ばしてあげたい」と意気込んでいる。

鈴木さんによると、発達障害の子どもたちの長所はまじめで正直なところ。毎日の行動スケジュール表を目に見えるところに置いておくと、忠実に実行する。パターン化した事柄にはめっぽう強い。

一方で「雨が降ったので遊園地には行けません」などと急に予定変更があるとパニックに陥ることも。最初から「晴れたら遊園地に行こうね」と見通しを持たせてあげることが必要。場の空気を読むことが苦手で、相手に合わせることも不得意だ。

鈴木さんは「授業に短時間しか集中できなかつたり、いじめられたり、不登校になるケースもあり、それが今、学校などで深刻な事態になっている」と指摘する。

アットスクールを経営する前の1999年から6年間ほど、大津市の学習塾で教育相談員をしていた。年間の相談件数は300~400件にも。半数近くが「先生が嫌い」「友だちとうまくかかわれない」「勉強が嫌い」といった不登校につながりかねない内容だった。

当初、鈴木さんは「単なるわがままでは」と考えていたが、相談件数のあまりの多さに子どもの努力不足だけではなさそうと考え始め、休日を利用して不登校や発達障害についての勉強会に参加した。大学教授の指導も受けうち、塾での相談内容が発達障害と関連があることが分かった。

「発達障害の子どもたちをサポートするには自分で事業を起こすしかない」。ベンチャー企業を応援する県に事業計画書を提出して2005年7月、草津市中心市街地で個人事業の学習塾を始めた。その後、カウンセラーなどの専門資格を取得し、07年6月に法人化。子どもに応じた多様な支援をするうちに現在のような幅広い活動をするようになった。

アットスクールのキャッチコピーは「できることから始めよう」。発達障害の子どもは論理的思考が要求される理数系科目が得意な子が多い。一方、パターン性がなくてケース・バイ・ケースでの理解が必要な英語が苦手という子が少なくない。母子から英語克服の相談を受けた鈴木さんは「英語は勉強しなくていい。まず得意な国語から勉強しよう」と提案することもあった。勉強そのものが好きになり、その後に苦手科目克服に取り組んだ方が効果的という。

鈴木さんは「子どもたちの長所を認め、しっかり褒めてあげることが大事。みんなが互いに助け合い、共感しあえる社会づくりの一助になりたい」と力を込める。

問い合わせはアットスクール＝電話077(565)7337＝へ。

(桑野隆)



保護者の相談を受ける鈴木正樹さん。
「子どもたちの長所を認めてあげて」と話す＝草津市大路のアットスクールで